

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：32633

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K19614

研究課題名（和文）入退院を繰り返す精神障害者が地域生活を継続する要因

研究課題名（英文）Factors That Enable Individuals Who Have Experienced Multiple Hospitalizations for Mental Illness to Continue Living in Their Community

研究代表者

榊 美樹（SAKAKI, Miki）

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：40826286

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、精神疾患により入退院を繰り返す方が地域生活を継続する上で、病との付き合い方や生活における工夫を分析することで、対象者が地域生活を継続する要因を探ることである。当事者にインタビューを実施した結果、入退院を繰り返すたびに、症状や治療と向き合い症状の対処を模索していた。医療者との関係性を築きつつ、治療や症状との付き合い方を自己決定していた。また、地域生活を続ける中で、自身の興味を広げることや他者との相互作用の中で、病以外に関心を広げていたことが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国における精神科医療は、入院治療から地域生活への移行を推進している。入院患者のうち約9割が1年以内に退院しているが、その一方で症状の再燃による再入院が課題となっている。本研究の対象者は、過去に入退院を繰り返しており、現在は1年以上地域生活を継続している者とした。よって、地域生活を継続するために当事者が構築してきた病との付き合い方や生活における工夫が明らかになり、再入院を予防する上での一助になると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study was to explore the factors that cause people who have experienced multiple hospitalizations for mental illness to continue living in a community by analyzing how they cope with their afflictions and what they do in their daily lives in order to continue living in their community.

Results of the interviews with the patients showed that each time they were repeatedly admitted and discharged from the hospital, they faced their symptoms and treatment and sought ways to cope with their symptoms. They decided on their own how to deal with their treatment and symptoms while building relationships with medical personnel. It was also suggested that as they continued to live in their community, they broadened their interests beyond their illness through interactions with others.

研究分野：精神看護学

キーワード：精神疾患 地域生活

1．研究開始当初の背景

我が国の精神科における平均在院日数は、諸外国と比較し長期であることが指摘されている。近年、早期退院の方針が示され、入院治療から地域生活への移行が推進されている。その一方で短期間の入退院を繰り返す新たな課題が生じた。精神科医療の制度では、地域生活を支えるサービスの構築を目指しており、入退院を繰り返す精神障害者が地域で生活を継続するための支援が重要である。効果的な支援を展開するためには、入退院を繰り返す精神障害者の対象理解を深めることが必須である。しかし、入退院を繰り返す当事者を対象とした研究は少なく、地域生活を継続する上で当事者自身が構築してきた病との付き合い方や生活における工夫は明らかになっていない。また、精神科医療は精神障害者への偏見や、パターンリズムにより、治療の判断は医療者が担ってきた歴史がある。しかし、近年リカバリーやストレングスマodelの普及により、当事者主体のケアが重要視されている。当事者主体の精神科医療を目指すためには、当事者を対象とした研究を行い、当事者の主観的な体験を理解する試みが必要である。

そこで、本研究は入退院を繰り返していた地域で生活をする当事者を対象に、地域生活を継続する体験について調査を行う。その結果は、看護師や対象を支援する多職種の対象理解を深め、効果的な支援を行うために役立つ。さらには、対象を理解して支援するための、当事者の声を反映したガイドライン作成の基礎的な資料となる。

2．研究の目的

本研究の目的は、精神疾患により入退院を繰り返していた方が地域生活を継続する上で、病との付き合い方や生活における工夫を分析し、対象者が地域生活を継続する要因を探ることである。

その結果は、入退院を繰り返す精神障害者を支援するガイドラインの基礎的資料となる。

3．研究の方法

（１）研究方法

本研究の目的を達成するために、文献検討で最新の知見を調査した後、のインタビュー調査を実施した。

文献検討

対象者が地域生活を継続している要因について示唆を得ることを目的に文献レビューを実施した。データベースは、医学中央雑誌Web、CiNiiとした。

検索式は、（統合失調症orうつ病or双極性障害）and（地域or地域精神保健サービス）and（語りorインタビュー）とし、会議録を除く過去5年間を検索した。選定基準は、地域で生活をしている精神障害者を対象としているもの、対象者の語りが記述されているものとした。

インタビュー調査

当事者が地域生活を継続する体験を明らかにすることを目的にインタビュー調査を実施した。

研究協力施設は、施設長の同意が得られた首都圏の訪問看護ステーション、就労継続支援事業所とした。研究対象者は、本研究に同意が得られた20歳以上の者、統合失調症スペクトラム障

害及び他の精神病性障害群、双極性障害及び関連障害群、または抑うつ障害群のいずれかの診断を有する者、精神科訪問看護または就労継続支援事業所を利用し、施設職員の同意が得られた者、精神科病院または精神科病棟に過去複数回入院歴があり、退院後 1 年以上地域での生活を継続している者とした。

研究対象者には、研究の参加は自由意思であること、同意されない場合も不利益を被ることはないこと、本研究へ一旦同意した後も同意を撤回できること、データは個人が特定されないよう匿名化することを研究者から説明し書面にて同意を得た。

インタビューは、同意が得られた研究対象者の自宅、利用施設のうち希望された場所で半構造化インタビューを 2 回に分けて実施した。インタビュー 1 回目では、現在の生活、自宅での過ごし方や役割、生活の工夫について聴取した。インタビュー 2 回目では、病との付き合い方、今後の希望について聴取した。

得られたインタビューデータは、研究対象者の許可を得て録音し、逐後録を作成した。分析はインタビューが終了したごとに行い、「地域で生活を継続する上で病との付き合い方や生活における工夫」に焦点をあて、意味のまとまりごとに切片化した。コードの類似と差異を比較してサブカテゴリを抽出し、共通するサブカテゴリから抽象度を上げカテゴリを抽出した。カテゴリ間の関係性からコアカテゴリを検討した。

本インタビュー調査は、研究者の所属機関である聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

4．研究成果

(1) 文献検討

精神疾患を持ちながら地域生活を継続する中で、病気と折り合いをつける、精神疾患に関する認識が変化する、病気とともに生き方が変化するという 3 つの視点が得られた。インタビューガイドを作成する際は、文献検討で得た知見を踏まえて作成し、これらの内容が聴取できるように留意した。

(2) インタビュー調査

首都圏の訪問看護ステーション 2 か所、就労継続支援事業所 1 か所から研究協力の同意を得て、6 名の研究対象者に 2 回インタビューを実施した。対象者は 50 代から 60 代の男性 3 名、女性 3 名であった。最終入院は X-2 年から X-21 年であり、入院回数は 2 回から 30 回であった。

分析結果より対象者は、入院治療を繰り返すたびに症状と治療に向き合うようになり、医療者と信頼関係を築きながら、症状を受け入れ対処方法を自己決定しながら病との付き合い方を構築していたことが明らかになった。また、地域生活では、周囲の人々との相互作用の中で対象者に求められる役割の変化や、興味のある分野に視野を広げることを通じて病気以外への関心を広げつつ回復に希望を持ち続けていた。対象者の地域生活を支援するためには、症状との付き合い方の自己決定を支え、病気以外の世界へ関心を広げられる関わりが、リカバリーを促進するための働きかけであると示唆された。

なお、本インタビュー調査の一部は、EAFONS2022(25th East Asian Forum of Nursing Scholars) で発表した。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1 . 発表者名 MIKI SAKAKI
2 . 発表標題 EXPERIENCES OF INDIVIDUALS WHO HAVE EXPERIENCED MULTIPLE HOSPITALIZATIONS FOR MENTAL ILLNESS AND CONTINUE TO LIVE IN THE COMMUNITY
3 . 学会等名 25th East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4 . 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6 . 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	-------------------------------	-------------------------	----

7 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------